

自由民主党 神奈川県第17選挙区支部

LIBERAL & DEMOCRATIC

号外 Vol.37

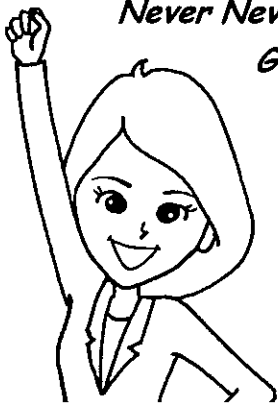


発行所 自由民主党
郵便番号 100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
振替口座 東京 00180-1-19518
定価 1部 105円(税込み)

自由民主

2012年1月号

自由民主党神奈川県第17選挙区支部長 牧島かれん



Never Never Never
Give Up!!

かれん新聞

毎月「かれん新聞」
を発行中!アーカイブスはHPへ!

<http://www.makishimakaren.com>

自由民主党神奈川県第17選挙区支部 〒250-0862 小田原市成田178-1 TEL.0465-38-3388

Mail: contact@makishimakaren.com

twitter:@makishimakaren

FAX0465-38-4400

二〇一二年がはじまりました。昨年は大災害に見舞われ、辛い年となりましたが、今年も日本全体が再び活力を取り戻すべく精一杯働いて参ります。本年も変わらぬご指導をお願い申し上げます。

国内課題が山積している日本ですが、グローバルな視点で2012年を見てみると、国のリーダーを決める選挙が世界各地で行われます。つまり、2012年は「世界が動く年」と言えるのです。

今年アメリカの大統領選挙が行われます。オバマ大統領が、財政健全化による景気対策の建て直しに成功し、再選を果たすのか、それとも共和党が政権を奪還するのか、注目が集まっています。また、ロシアやフランスでも大統領選挙が行われます。

アジアでも、中国国家元首交代が行われます。現在の共産党青年団派の胡锦涛から太子党の晋近平に国家元首が変わるとの見方もあります。お隣の国、韓国でも大統領選挙があり、台湾総統選挙も行われます。そして先日、突如飛び込んできた金正日総書記死

去のニュース。三男の金正恩氏が最高指令官となった模様ですが、本来今年には北朝鮮の「強盛大国」の目標年であり金日成生誕100周年、金正日生誕70周年の年にあたります。経験値のない新たなリーダーが、そのリーダーシップと実績をアピールするため、如何なる行動に出るのか、日本はしっかりと注視し、対策を講じていかなければなりません。

かれん発

「永田町・リボルビングドア構想」

〈その①〉

そして日本も、今年には総選挙が行われるのではないかと、この臆測があります。その時期の是非については国民的議論が行われるべきだと考えていますが、いずれにしても国益を第一に、国民のために働く政治家と、それらを統率しながら、未来に向けた明確なビジョンを示すことのできる強いリーダーシップが求められていることは確かだと思えます。

連日「政権交代に託した国民の

期待が裏切られた」という趣旨の報道が続いています。しかし、だからと言って、今後の政治に期待する声も挙がらない。具体的に改善すべき制度の問題や、政治システムに対する新たな提案など、前向きな意見が聞こえてこないのが現状です。政治そのものへの信頼回復はもとより、政治家が未来志向の具体的な提案をできていないこと、そのことにも問題があるように感じています。反省や批判はもちろん大切ですが、何よりも停滞した政治の空気そのものが国の舵取りを難しくさせているように感じています。

そこで私は、政治に対して具体的に提言をまずはひとつ、行うことにしました。既成の政治システムにメスを入れるものです。ざばり、「永田町・リボルビングドア構想」。

リボルビングドアとは、回転ドアを意味します。政治システムを、回転ドアのように、風通しの良い、活性化されたシステムに再構築しよう、というプランです。

現政権下で、「政治主導」が叫

ばれ久しくなりましたが、そのプロセス・結果いずれを見てみても、官僚によるお膳立てを色濃く感じるのは私だけではないはずで、す。官僚からの脱却を謳いながらも、結局は官僚によって用意されたプランをなぞらざるを得ない現状。一方で、首相がコロコロと入れ替わる中、中長期的な施策を遂行できるのは、官僚によって事業がしつかりと掌握されているからだ、という現実もまた事実なのです。

「脱官僚」「永田町VS霞ヶ関」と声高に叫ぶことには、実はあまり意味はなく、実際にはそれらが機能していた現実を直視しながらも、その弊害を取り除き、前に進んでいくための具体策を示すべきなのです。

そして私が出した答えが「永田町・リボルビングドア構想」です。

この構想は、アメリカのホワイトハウスからヒントを得ています。アメリカでは、大統領が入れ替わるたびに、ホワイトハウスのスタッフも大規模に交代します。政権交代ごとにスタッフが大幅に入れ替わる様が、まさに回転ド

アに似ていることから、「回転ドア (revolving door)」と呼ばれています。

この構想のメリットは、政権が代わると、スタッフも交代。その政権が成し遂げたいビジョンを共有しているメンバーにガラリと交代するので、チーム一丸となつてビジョンの達成に向かうことができるのです。そして、それだけ決定や実行のスピードアップが期待できます。

また、今の日本の官僚への批判の多くは、終身雇用で競争が働かず、「事なかれ主義」に陥りがちであるという点ですが、リボルビングドアを導入することで、民間企業やシンクタンク出身者、研究者や専門家の登用が可能となり、より外部の風が入り、私たち国民の感覚が伝わりやすくなります。もちろん、現在でも諮問機関や委員会などへ民間からの登用は行われており、その意見は政策に反映されてきました。しかし、政府のスタッフとして政策立案に責任をもつて関われるような組織体系にしたほうが良いと考えられています。

アメリカの例を見ると、大統領が官職任命権を政治的に使うことは正当な手段として認められており、大統領が政治的に任命できる行政府全体の官職の数は5000余り。その内2500は各長官が任命し、パートタイムの職員を除くと、大統領が直接任命するフルタイムの行政官僚職は約600になります。その中でも各省の長官、次官、次官補、局長など約300の任命が大統領の政権運営にとって重要とされています。

行政職で政治的に任命される者の選考の基準は、大統領の政党に属していることや、もちろん役職を担う能力を備えていることですが、例えばレーガン政権ではレーガン流保守主義の支持者というイデオロギーの同調度が基準として用いられました。クリントン大統領はイデオロギー基準ではなく、女性や少数民族といった独自の基準を採用し、その部分でも政権の特色や方向性を見て取ることができました。

リボルビングドアをわかりやすく「ホワイトハウスを牛耳る党

が交代するたびに上は閣僚から下は政権幹部のかばん持ちや秘書までがごっそりと入れ替わる制度」と説明する人もいます。もちろん、その「スタッフ」という枠組みをどこまで拡張・限定し、どのような権限を与え、法的な位置づけをどうするか、という細かい整備は必要不可欠です。

物事には一長一短があり、リボルビングドアを導入することで「デメリットはありません。官民の癒着や天下り、情報漏えいの危険性など、懸案事項は存在していません。それらへの対策はまた後に述べますが、何よりも現在の、官僚VS政治家、親○○、反○○、という単純化された二項対立や批判ばかり繰り返す政治では、突破口を見出すことはできません。

政治の現場を風通し良くし、さまざまなキャリアパスを持つ人たちのアイデアを結集させるという「大胆な方向性の提示」をし、国民で議論していくことが今の政治には必要なのではないでしょうか。

国家ビジョンを提示する
政治の現場を創り直します。
牧島かれん